

競技注意事項

1. 本大会は2022年度（公益財団法人）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。
2. 練習は競技役員の指示に従い、危険防止に努めること。

3. 競技者の招集について

- (1) 招集所は競技場第1ゲート付近（100mスタート付近）に設ける。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準として下記の通りとする。

種目	招集開始時刻	招集完了時刻	種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	20分前	15分前	棒高跳	65分前	60分前
フィールド競技	35分前	30分前	走高跳・男子走幅跳	45分前	40分前

(3) 招集方法

- (ア) 競技者は出場種目の招集開始時刻に招集所にてチェックを行う。
- (イ) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- (ウ) 代理人による招集最終確認は原則として認めない。他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。

4. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場は競技役員の指示に従うこと。競技者以外はトラック、フィールド内に立ち入ることはできない。また、本部前（メインスタンド下の通路）の通行は禁止とする。
- (2) トラック競技出場者は、フィニッシュ後、第2ゲートを通り退場する。
- (3) フィールド競技出場者の退場については、当該競技役員・マーシャルの指示に従う。

5. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、必ずユニホームの胸背に確実に付けること。ただし、跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかでよい。
- (2) 800m以下のトラック競技出場者は、腰ナンバーカードを各自で用意し、パンツ右側後方につけること。
- (3) 4×400mRの腰ナンバーカードは各自で用意し、第2・第3走者はパンツ左側に、第4走者はパンツ右側後方につけること。
- (4) 1500m出場者は、腰ナンバーカードを競技者係で受け取り使用すること。
- (5) 3000m以上の競技（競歩も含む）出場者は、レーンナンバーカード及び腰ナンバーカードを競技者係で受け取り使用すること。

6. 走路順・試技順について

- (1) 予選における走路順・試技順は、プログラム記載通りとする。
- (2) 決勝進出者を決める場合、同タイム者については判定写真を拡大し、細部（電気計時1/1000）まで読みとり判定する。判定が不可能な場合は救済レーン（第9レーン）を使用するが、対象選手が救済レーン数を上回る場合は、本人か代理人によって抽選する。ただし、800mでは安全上問題のない範囲でスタートからブレイクラインまでのセパレートコースについては、一つのレーンに複数の選手を入れて競技を行う。

7. 競技について

- (1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- (2) 「On your marks」あるいは「Set」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき、1回目はグリーンカードで対応し、スターターより当該選手に注意内容を告知する。同一ラウンドにおいて同様の行為を2回行った場合は遅延行為とみなし、審判長よりイエローカードを示し警告を与える。同一種目において2枚のイエローカードを受けた競技者は当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場を妨げない。
- (3) 競技用靴は、TR5.2を適用する。ただし、フィールド競技の靴底の厚さについてはこれを適用しない。よって、記録は国内でのみ通用するものとなり、WAへの申請も行わない。しかし国際競技会への参加資格となり得る記録が出た場合は、競技終了直後に全員のシューズを検定する場合がある。
- (4) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (5) リレー競走に出場するチームは、その種目の第1組目の招集完了時刻1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出すること。ただし、女子4×100mRに限り8:00までとする。提出時間に遅れたチームは当該種目を棄権したものとみなし処理する。
 - * 申告したオーダー用紙の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
 - * 招集完了時刻前であっても、一度申告した編成の変更（オーダー用紙の差し替え）は認められない。
 - * 医務員の判断による変更は出場者のみ認められ、編成（走る順番）の変更は認められない。
- (6) 予選を経て実施されるトラック競技の決勝は、予選記録上位者を第2組目とする。
- (7) 男子5000m・男子3000mSC・女子400mH・4×400mRは決勝タイムレースとする。
- (8) 5000mWは、男女同時スタートとする。
- (9) 競技者に対する助力は、TR6. に準ずる。

8. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。

種目	練習	1	2	3	4	5	備考
男子走高跳	決勝 1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	以降3cm刻みとする
女子走高跳	決勝 1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m53	以降3cm刻みとする
男子棒高跳	決勝 2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	以降10cm刻みとする
女子棒高跳	決勝 2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	2m50	以降10cm刻みとする

9. 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使わなければならない。やりは検査を受けて通ったものを使用することができる。検査時間は、男子8：30～9：00、女子8：00～8：30までとし、場所は本部前で行う。返却はやり投競技終了後とする。ただし、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
10. 表彰は各種目とも8位までに賞状を授与する。ただし、決勝が複数組ある場合は、決勝タイムレース上位8名（チーム）に賞状を授与する。
11. 各種目3位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰する（代理でも良い）。4～8位の入賞者は、競技場エントランスホールで賞状を受け取る。
12. 各学校のテント設営は、テント付属の取扱説明書（マニュアル等）に従って、しっかり固定すること。
13. テント設置場所は、事前に決定しているスタンド割り振りの場所に設置すること。